

肝臓病治療センターからのお知らせ

⇒ 肝臓がんにならないための新しいインターフェロン治療



2 C型慢性肝炎に対する治療

① インターフェロン治療

インターフェロンはペグインターフェロン製剤が開発され、1週間に1回の注射でも抗ウイルス効果が向上し、副作用が少なくなりました。

② リバビリン（レベトール）の併用治療

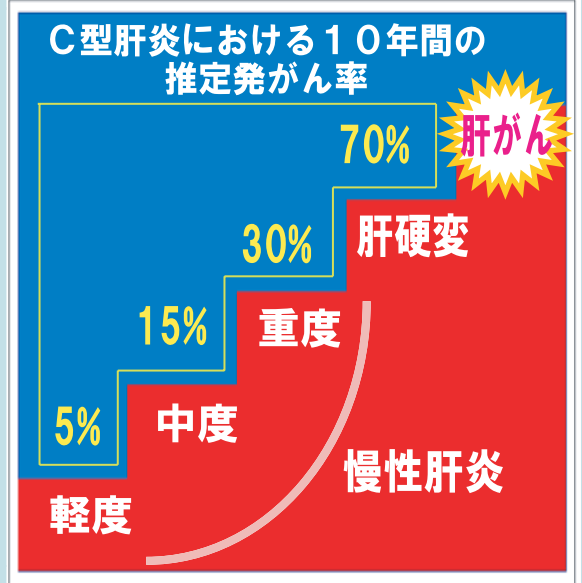
リバビリン（レベトール）の内服を併用することにより、肝病変の進展予防だけでなく、肝発がん率が低下してきました。

新しい治療薬の導入!

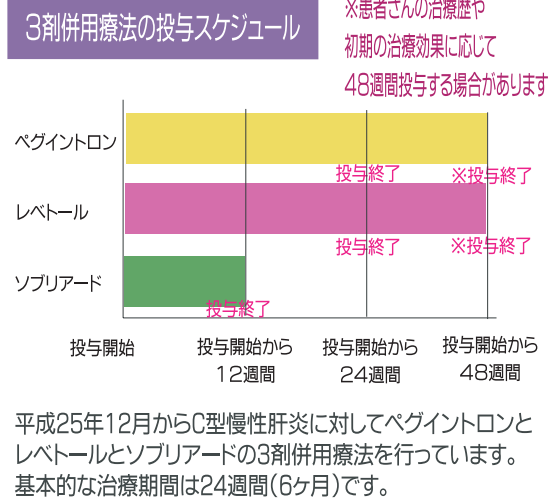
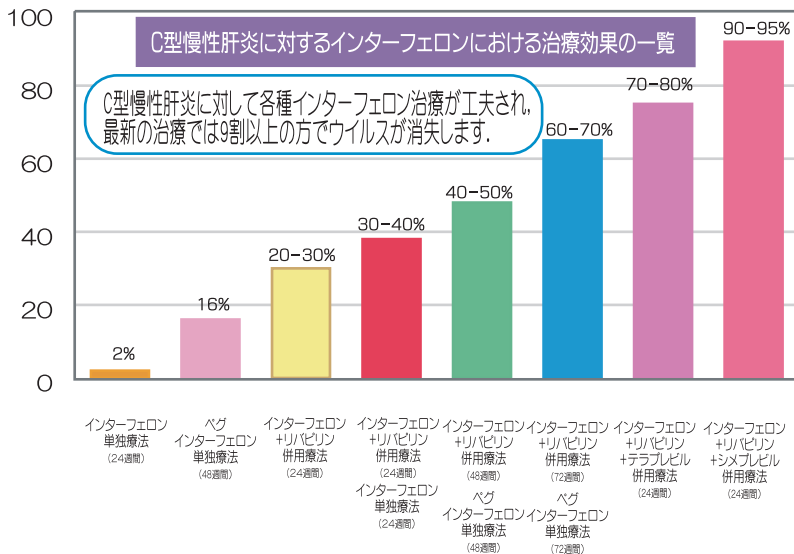
③ シメプレビル（ソブリアード）の併用治療

さらに、平成25年12月からインターフェロンの効果を高める併用薬シメプレビル（ソブリアード）が認可され、抗ウイルス効果が飛躍的に高まりました。

これらの治療により、肝がんの予防につながるものと考えられています。肝臓専門医の指導の下に、治療を受けて下さい。



C型慢性肝炎から肝硬変へと進むと、発癌率が上昇します。C型肝硬変では10年間で7割の患者に肝がんが発生します。



★B型肝炎、C型肝炎治療は医療費助成があります★



核酸アナログ治療やインターフェロン治療は保険適応ですが、それでも高価な治療となります。平成20年度から国と県の事業として、上記治療の医療費助成制度が開始されました。治療を受ける際には、この助成金制度を利用することが可能になります。